2020 年 4 月 30 日版

本冊子は、DAN ヨーロッパの好意により、DAN JAPAN が翻訳し必要と思われる日本の情報を付け加えて編集発行するものです。情報は変わることがありますので、本資料を利用するにあたっては、常に最新の情報に注意してください。

COVID-19 と ダイビング活動

リスクの予防とリスクを軽減するための 10 の勧告

Courtesy DAN Europe Foundation
Translated and Japanese version by

DAN DIVERS ALERT NETWORK EUROPE

DAN JAPAN

この文書は COVID-19 という緊急事態に対するリスクを緩和するための適切な手順についてのいくつかの勧告を提供しようとするものです。水中で作業するものは、いずれにしても、全国、地方、または、地域当局が水中活動の再開を認め、守るべき適正な行動についての基準を定めるのを待たなければなりません。権限のある行政当局等の発する諸措置も尊重しなければならないでしょう。

注意

この件に関する疫学および規制に関する状況は常に変化しています。
本資料は、DANヨーロッパの好意により翻訳するもので、その内容については、日本の状況に合わせた編集をしています。
したがって、本資料の利用にあたっては、原文を参照するとともに、常に最新の情報に注意願います。

目次

1	お客様とスタッフの安全のためにどんな対策をとるべきか	1
2	消毒作業はどのように実施すべきか	5
3	レンタル器材を消毒・管理する最もよい方法はどのようなものか	8
4	ダイバー所有の器材の洗い方はどうすればよいか	10
5	ボートやゴムボートにはどんな措置を講じればよいか	11
6	バディチェックと緊急時のガスシェアを安全に行うにはどうすればよいか	13
7	タンクの充填を安全に行うにはどうすればよいか	14
8	ファーストエイドとCPR：緊急事態にどう対処すればよいか	16
9	ウイルスは水中で生存できるのか	18
10	このパンデミックの間、どんな営業方法と緊急行動計画を採用すればよいか	19

1

お客様とスタッフの安全のためにどんな対策をとるべきか

- 受け入れ
- 一定の間隔を置く
- 更衣室
- 身の回りの衛生管理
- 使い捨て個人用防護服の使用

お客様とスタッフの安全のためにどんな対策をとるべきか

1.1 受け入れ

COVID-19 に関連すると思われる症状がある場合、ダイビングセンターには行かないようお客様に伝えるようにしてください。さらに、密集するのを避けるために、ダイバーではない同伴者を受け入れないようにします。店舗にいるスタッフは、その活動を行うのに絶対に必要な者だけにしなければならないでしょう。センターが採用する予防方法は、誰でも分かる適切な大きさのポスターに書いて、よく見えるように示されなければなりません。詳細については、**お客様への告知文**のひな形を参照してください（添付 1）。

お客様がダイビングセンターを訪れる前に、リモート/オンラインで必要な書類に記入してもらうようにするのがよいでしょう。もしそうできない場合は、文書に記入する前に、お客様が確実に正しい衛生管理方法を守っているか確認してください（マスク、グローブ、筆記用具など共用するものをすべてアルコールで拭く、手指消毒剤等。支払い方法に関しては、現金によるものより、オンラインによる方法を選択する（銀行振替、ペイパル、あるいはそれに似た方法）か、クレジットカードが望ましいでしょう。

1.2 一定の間隔を置く

WHO（世界保健機関）ではお互いに少なくとも **1m の距離**をとるよう勧告しています。ダイビングセンターの中でも、すべての場所で、教室も更衣室も含めて、お互いの位置を少なくとも 1m になるように一定の間隔を置くようにしてください。共用部分では、人と人の間に一定の距離を保つ距離をマークするとよいでしょう。たとえば、よく見える粘着テープを使うなどです。
適切な距離を決めるのに、当該地域の管轄権を持つ当局の指示を頭に入れておいてください。これには、違いがあるかもしれません（たとえば、イギリス、アメリカ、カナダでは 2m/6ft で、オーストラリアでは 1.5m/5ft）。
できる場合は、e ラーニングや遠隔教育が望ましく、これなら教室での対面時間を少なくできます。

1.3 更衣室

更衣室は感染のリスクが最も高い場所にかもしれません。お客様の携行品はすべて、衣服やバスタオル、バスローブも含め、誰もが共通に使う場所に触れないようにしておかなければならないでしょう。ロッカーに収納する場合は、使用後に必ずロッカーを消毒する必要があります。また別に、お客様に個人の所有物を専用の入れ物（小さい袋や箱の類い、バッグ類など）に仕舞う、十分な間隔を開けて床やベンチに置くように勧めてもよいでしょう。もし、ダイビングセンターから提供するなら、そうした入れ物は使った後には必ずしかるべく衛生処理をしなければなりません。

1.4 身の回りの衛生管理

新型コロナウイルス（SARS-COV-2）は、呼吸器のウイルスで、主として感染者の呼吸からの飛沫に接触すること、たとえば、くしゃみや咳、鼻をかむなどで感染します。

身の回りの衛生管理の正しい方法には以下のことがあげられます：

- ✓ 手を頻繁に、また、少なくとも 20 秒洗う
- ✓ 適切な距離を保ち、他の人と直に接触しない
- ✓ 目や鼻、口に触らない
- ✓ 呼吸器系の衛生管理に気を配る。これには、咳やくしゃみの時に肘を曲げて、あるいは、ティッシュで覆うことも含まれます。

この点において、ダイビングセンターは、推奨されているように、手洗い用の衛生用品や適切な手洗い設備を用意しなければなりません。

1.5 使い捨て個人用防護服（PPE）の使用

マスク

WHO（世界保健機関）は、咳が出る、くしゃみがでる場合、あるいは、COVID-19 の罹患者を介護する場合は、マスクを使うよう勧めています。それでも、ダイビングセンター内の全員がマスクを着用するのが賢明です。いずれにしても、この点については、自治体の指示に従い、自らを守るようにしてください。マスクを着用するのは特にスタッフにとって重要です。スタッフはお客様と長い時間接触しますし、ダイビングセンターにある器材や設備に触れる機会が何度もあるからです。

どんなマスクを選べばよいでしょうか。適したものは基本的に 3 タイプあり、用途に応じて選択します：

- ✓ **サージカルマスク**（いわゆる利他的マスク）は伝染した人が飛沫をまき散らす可能性を減じる可能性はありますが、マスクを着用している人を保護するものではありません。限定された場所で、全員がマスクを着用していれば、一定程度の保護になります。
- ✓ **フィルターマスク** FFP2、KN95、FFP3 は、効果的に保護ができるマスクで、しっかりとフィットさせれば、それを着用している人もしていない人も保護します。というのも、伝染性の飛沫を 99%まで止めるからです。
- ✓ 注意：FFP2 や KN95、FFP3 マスクの中には、正面に**バルブ**がついているものがあり、これはフィルターではなく、息を吐き出しやすくするものです。これは着用している人しか保護せず、吐き出したものから近くにいる他の人は保護しません。ダイビングセンター内での使用は、勧められません。

マスクを着用する前に、手を消毒する必要があります。マスクは着用している時、それに触ってはいけません。また、マスクの後ろから外して、最後に、適切に密閉された容器に捨てなければなりません。
さらに詳細については、イラスト説明図、**マスクの着用、使用、取り外し、および、処分**を参照してください（添付 2）。

1.5 使い捨て個人用防護服の使用

グローブ

使い捨てのグローブ（たとえば、ラテックスのそれ）は、着用している人の手だけを保護します。物や施設を扱う人には役に立ちますが、周りの環境や他の人を感染から保護してくれるものではありません。使う前に、穴が空いていないかなどを確認し、着用中は定期的に消毒してください。使い終わったら、グローブの表面に皮膚が接触しないように、グローブを外して、密閉された容器に捨ててください。

さらに詳細については、イラスト説明図、**使い捨てグローブの正しい使い方ガイド**を参照してください（別添 3）。

注意

使い捨てのグローブがあれば安全だと間違ってしまうことがよくあります。そのため、装着していると何かの表面をさらに汚してしまったり、手の消毒をあまりしなくなることがよくあります。ですから、定期的に取り替えて、装着時も外した後も、十分に手の消毒をするようにしてください。

2

消毒作業はどのように実施すべきか

- 表面
- ダイビング器材

消毒作業はどのように実施すべきか

コロナウイルスの研究から、その感染力は熱や紫外線、酸性やアルカリ性状態で抑えられることが示されています。表面を消毒し、ウイルスを無害化するには、広く使われていて、入手しやすい、家庭内の掃除で使われている製品を使うことができます。

2.1 表面

ウイルスが表面の上でどのくらい生き残るかははっきりしていませんが、WHO によれば、表面のタイプや温度、周囲の湿度によって違いますが、数時間から数日生存するといわれています。ですから、すべての表面を、特にたくさんの人が直接触れるものをきれいにし、また、頻繁に消毒する必要があります:ドアノブ、窓ノブ、灯りのスイッチ、蛇口、キーボードなどです。消毒するすべての場所と表面のリストを作成しておくと便利でしょう。

ウイルスを除去するのに有効な製品の中には、アルコールベースの、**アルコール**(エタノール/エチルアルコール)割合が 75%ある消毒剤もありますし、**次亜塩素酸ナトリウム**(漂白剤やブリーチ)ベースの製品もあります。

次亜塩素酸ナトリウムが、呼吸器に炎症を起こさずにウイルスを除去するレベルは、ほとんどの表面で **0.1%**です。衛生設備(トイレ、シャワー、洗面台)では、もっと高いパーセントのもの、**0.5%**のものを使っても構いません。

注意

手や指の消毒用の水性アルコールも含めてアルコールベースの消毒剤を使う際には特に注意が必要です。少量でも、アルコールには揮発性と燃焼性が比較的温度が低くても高いという特質があるので、燃える、あるいは、爆発する原因になります。設備やボンベ、それに、ナイトロックスを充填するのに使う充填用ホースに直接・間接的に接触しないようにしてください。可能なら水と石けんだけで手を消毒するのが望ましいでしょう。
また、エタノール/エチルアルコールと次亜塩素酸ナトリウムはどちらも表面を傷つけますので注意してください。物品や表面に使う場合にはあらかじめそれぞれでテストをする方がよいでしょう。

ダイビングセンターの敷地内は日常的に消毒するようにします。また、更衣室のような共用の場所は、誰かが利用した後に必ず消毒しなければなりません。
清掃と消毒の一般的指示に関しては、WHO および厚生労働省のサイトなどを確認してください。また、一般の家庭用製品で新型コロナウイルスに有効なものについての情報は、北里大学のサイトに掲載されています。

2.2 ダイビング器材

はじめに

ダイビング器材にウイルスがどのくらいの間生存しているか、また、器材の内部にどの程度入り込むかに関して行われたテストはありません。ですから、ダイビング器材に対しても、使用後にウイルスを無害化する効果が示された消毒剤を使うことが必要です。製品の中には、第四アンモニウムのように、効果があり、また、ダイビング器材に典型的な素材（ゴム、ネオプレン、プラスチック、金属等）でも極めて安定しているものありますが、手に入りにくく、海洋環境に有害です。また、漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）のように、手に入れやすく廉価なものもありますが、注意深く説明書きと使用上の措置を遵守して使わなければならないものもあります。少し値段は張りますが、ダイビングの分野で一般的に使われている製品（EW80、Vircon S 等）もあります（EW80 は EW80 Systeme GmbH の製品、Vircon S はバイエル社の製品で、日本では、アンテックビルコン S として販売されている）。
どんな有効成分のものや消毒方法を選ぶにしても、最も重要なのは、新型コロナウイルスに対する効果が立証されていることです。

参考までに、アメリカ合衆国の例を付け加えると、EPA（環境保護庁）が SARS-CoV-2 に効果のあるリスト（List N）を出していますし、ヨーロッパでも ECDC（ヨーロッパ疾病予防管理センター）がガイドラインを出しています。

次亜塩素酸ナトリウム

ウイルスを除去する効能がある製品の中に、**次亜塩素酸ナトリウム**を有効成分としている一般的な**漂白剤・ブリーチ**があり、これはさまざまなブランド名で販売されていて、濃度は様々です（5－10%）。ですから、製品のラベルを読み、入っているパーセントを確認し、次に、正しく水で薄める必要があります。

最近の科学的研究(1)では、**5%**の次亜塩素酸ナトリウムで漂白剤を **1:50** で希釈し（**0.1%**濃度、すなわち、活性成分 **1,000ppm**）、物品を少なくとも **5 分間**浸すように勧めています。

水で希釈して活性成分 **0.1%**の割合の **5 ℓ**の溶液を作る具体的例は以下です：

- ✓ 5%の次亜塩素酸ナトリウムの漂白剤//製品 100ml を 4900ml の水に入れる、あるいは
- ✓ 10%の次亜塩素酸ナトリウムの漂白剤//製品 50ml を 4950ml の水に入れる

使う場合の注意：

- ✓ 作業をグローブ、マスク、アイプロテクションを使って実施する。
- ✓ 換気のよいところで溶液を混ぜる。
- ✓ 冷水の中で混ぜる。お湯だと活性成分が損なわれます。
- ✓ 漂白剤を別の製品と絶対に混ぜない。
- ✓ 清掃の際に跳ねや飛沫が出ないようにする。
- ✓ 使う前に十分な流水で濯ぎ、乾燥させる。

3

レンタル器材を消毒・管理する最もよい方法はどのようなものか

- 推奨事項
- レギュレータのマウスピースを使う度に交換すべきか

レンタル器材の正しい管理とはどのようなものか

3.1 推奨事項

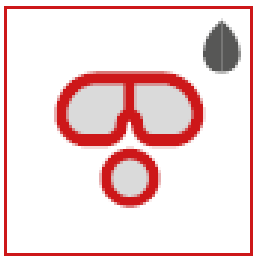
器材レンタルは特に注意して扱わなければなりません。万一汚染された場合のダイビングセンターオーナーの責任を特に考えておく必要があります。以下にいくつかの推奨事項を掲げておきます:

- ✓ レンタル器材は指示された通りに、使用後、特にレギュレータ、BCD、スノーケル、マスクに注意を払って、消毒するようにします。
- ✓ レンタルマスクはダイバーが使う前にフィットするかどうかテストすることになります。つまり、テストの後には、消毒が必要ということになるでしょう。お客様には、少なくともマスクはご自分のものを用意されるようお願いしてください。
- ✓ レンタルマスクの返却エリアと消毒済みの器材を置くところを分けてください。
- ✓ お客様が消毒済みの器材が置いてあるエリアに入らないようにします。器材はお客様に直接渡すようにします。
- ✓ レンタルした器材は個々の入れ物に移し、お客様の名前をつけ、使用後に忘れずに消毒します。
- ✓ 消毒したら、器材を安全に取り扱います。たとえば、マスクやスノーケル、レギュレータをバッグに密閉して保管し、使う前にバッグから取り出します。
- ✓ お客様とスタッフには、スクーバ機器を組み立てる際、タンクバルブや給気口、レギュレータのファーストステージの接続口に触わらないよう注意してください。

3.2 レギュレータのマウスピースを使う度に交換すべきか

お客様には特別に配慮された素晴らしいサービスだと受け取られるかもしれませんが、マウスピースを交換しても汚染を防ぐには十分ではありません。罹患した人が使うと、マウスピースを汚染するだけではなく、セカンドステージ全体が汚染されます。ですから、たとえ、マウスピースを交換したとしても、上で説明したようにレギュレータを消毒する必要があるのです。

4



ダイバー所有の器材の洗い方はどうすればよいか

ダイビング後に器材を濯ぐのに、みんなが同じ洗浄容器を使わないようにしてください。ダイビングセンターに各自が水を流して濯げるような適切な設備がないなら、ダイバーが所有する器材はどこか他のところで洗うようにしなければなりません。ダイバーが器材を乾かす場所をダイビングセンターが用意するなら、器材と器材のスペースを十分とれるようにしなければなりません。お客様には、使ったらなるべく早く器材を消毒するように必ず注意するようにしてください。

5

ボートとゴムボートには
どんな措置を講じれば
よいか

ボートとゴムボートにはどんな措置を講じればよいか

ダイビングボートの運航には特に高い注意が必要です：お互いの身体が近くなるような場所では、感染のリスクはかなり高まります。必ず、管轄当局の指示に従ってください。
以下に一般的に推奨されることを掲げます：

- ✓ 乗船している際にも物理的距離（P2 の 1.2 参照）を守ります。
- ✓ 不必要な物、つまり、安全上の理由や水中行動に必要でない物は船に持っていかないようにしてください。
- ✓ 器材を組み立ててから船に積み込みます。
- ✓ 物品や器材を扱うスタッフはグローブとマスクをつけるようにします。
- ✓ マスク、スノーケル、前もって組み立てたレギュレータのセカンドステージを確実に保護しておきます。たとえば、ビニール袋やケースに入れておいて使う直前に取り出す、など。
- ✓ マスクを濯ぐのにバケツを使ってはいけません：そうでなく、オープンウオーターの水で洗います。マスクの曇り止めに唾を使わないようにします：専用の曇り止めを使うようにしてください。
- ✓ 一定の距離をとるルールを守っていても、ボートが動いている際、また、風の影響のために、飛沫が長い距離飛ぶかもしれません。ですから、乗客が全員マスクを着用するようにしてください。他の人の器材に触れないように乗客に注意してください。
- ✓ 船の上に手指消毒剤が用意されていることを確認してください。
- ✓ ダイバーがエントリー・エキジットする際に距離をとるというルールが確実に守られるようにします。流れがあるときに、距離をとるというルールを水面で守ることはできないでしょう：ブイなどに取り付けたラインに、テープなどでスペースがわかるようにしたものを使えば、適切な距離を保つのに役に立つでしょう。

6

バディチェックと緊急時のガスシェアを安全に行うにはどうすればよいか

一定の間隔を置くというルールは、以下のことを行う場合も守らなければなりません：

- バディチェック： ダイバーは他のダイバーの器材、特にダイバーの顔と口に触れる器材の部分には、触らないように注意してください。目で見て確認するバディチェックを実施し、自らデモンストレーションし、口頭で確認します。

- ガスシェア： 緊急時と練習を実施するどちらも、バックアップ用の呼吸装置を使い、ダイバーが呼吸しているレギュレータは与えないようにします。

注意してください

この問題に関して指導団体が示すガイドラインは様々かもしれません。所属する指導団体から出された最新のガイドラインを手に入れ、それをしっかり守るようにしてください。

7

タンクの充填を安全に行うにはどうすればよいか

- コンプレッサーと充填作業
- 充填エリア

タンクの充填を安全に行うにはどうすればよいか

7.1 コンプレッサーと充填作業

理論的にいえば、ウイルスは空気取り入れ口からコンプレッサーに入る可能性はあります。取り入れ口のフィルターは小さな飛沫を除去することはできないからです。圧縮後の呼吸空気フィルターも、小さな粒子を確実に補足するという保証はありません。ですから、コンプレッサーの空気取り入れ口は、安全な場所に置くようにして、汚染されないように注意してください。このウイルスは、高温に弱いといわれています。暖かいときには、コンプレッサー内の気体温度は 120℃以上になることもあり、それに加えて、圧縮のピークには非常な高温に達します。これは、このウイルスの耐えうる閾値よりずっと高いものです(参考文献 2 参照)。ですから、コンプレッサーを通過してウイルスが活性のままであるとは考えにくいでしょう。

そうはいっても、タンクバルブや充填用ホースを扱うという話になるとリスクはあります。感染した操作員によって汚染されるという可能性です。ですから、充填作業をする全ての人が適切な除染手続きを守り、必ず推奨される PPE(マスク、グローブ)をすることが重要です。

7.2 充填エリア

充填エリアでも個人の衛生管理と物理的な距離を保つという方法を遵守しなければなりません。コンプレッサーや充填ステーション、充填済みのタンクの保管エリアには、許可された人だけしか入れないようにします。

注意してください

水溶性アルコールの手指消毒液などのアルコールベースの消毒剤を使う場合は、特に注意が必要です。アルコールは、非常に揮発性が高く燃えやすい性質があるので、含まれるパーセントが低くても、火災や爆発の原因になる可能性があります。ナイトロックスに使われる設備やタンク、充填ホースには、直接・間接にも接触することがないようにしてください。できれば、手を洗うのに単に石けんと水を使う方がよいでしょう。

8

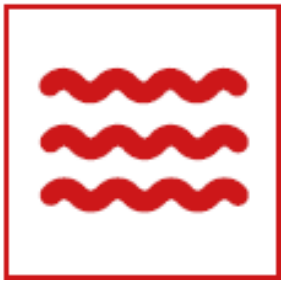
ファーストエイドとCPR：緊急事態にどう対処すればよいでしょうか

ファーストエイドと CPR：緊急事態にどう対処すればよいでしょうか

以下に、介入する際にどうすれば傷病者と救助者の両者の感染を予防できるかについての役に立つ勧告をいくつか掲げておきます：

- ✓ 救助者と傷病者、現場にいる他の人全員が安全であることを確認する。
- ✓ すべての PPE（個人用防護具）を身につけ、保護バリアを用いていることを確認する。
- ✓ 傷病者を揺り動かすか、刺激して意識を確認しますが、この時、顔を近づけない。
- ✓ 傷病者に呼吸があるかどうか判断するのに、胸の動きを観察するだけにする。
- ✓ 傷病者に意識がなく、呼吸もないなら、救急隊（EMS）の出動を要請して状況を説明し、胸骨圧迫を開始しますが、マウス-トゥ-マウスの人工呼吸/換気は行いません。
- ✓ 利用できれば、AED（自動体外式除細動器）を使う。
- ✓ 救助活動を続けます。傷病者に普通の呼吸が戻るか、救助者が疲れ切ってそれ以上できなくなるか、救急隊（EMS）が到着するまで続けます。
- ✓ 救助活動を終えるか、傷病者を救急隊に引き渡したら、PPE を正しく脱いで、正しい方法で廃棄します。手をよく洗ってください。傷病者に使った医療機器はできれば、使用後に消毒するか、正しいやり方で廃棄してください。

9



ウイルスは水中で生存できるのか

研究はなお続けられています。また、SARS-CoV-2 ウイルスが水中でどのくらい長く生き残ることができるかはっきりしていません。SARS-CoV-1 ウイルス（2003 流行）についての研究では、水面（湖沼、河川、干潟等）で長期間に渡り感染力を持つことが分かっています。海水はこのウイルスを無害化できないようです。正しく塩素処理あるいは温泉水を用いたプールと温水浴槽では、SARS-CoV-2 ウイルスは一定時間経てば不活性化されると CDC（疾病コントロールセンター）は指摘しています（参考文献 3 参照）。

ですから、現在のエビデンスによれば、水中でも水を出ても、どちらにしても、注意をするようにしてください。この注意には、一定の距離を空けるルールを守ること、器材を正しく洗い、消毒することも含まれます。

10

このパンデミックの間、どんな運営方針と緊急行動計画を採用すればよいか

ダイビングセンターは、この冊子にある勧告や他の国内のルールや規則を考慮して、各自の「運営方針」をアップデートしなければなりません。特に、感染が疑われる、あるいは、感染したスタッフやお客様、それに、ボートの乗組員など、それぞれに応じた「緊急行動計画」には、感染制御を続け、また、感染が疑われる人を直ちに隔離する具体的指示が含まれていなければなりません。

参考文献

1

- Use of disinfectants: alcohol and bleach. Infection Prevention and Control of Epidemic- and Pandemic-Prone Acute Respiratory Infections in Health Care [Internet]. Available from https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK214356/
- Kampf G, Todt D, Pfaender S, Steinmann E. Persistence of coronaviruses on inanimate surfaces and their inactivation with biocidal agents. Journal of Hospital Infection. 2020Mar;104(3):246–51.
- Lai MYY, Cheng PKC, Lim WWL. Survival of Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus. Clinical Infectious Diseases [Internet]. 2005Oct1;41(7):e67–e71. Available from: https://academic-oup- com. proxyiub.uits.iu.edu/cid/article/41/7/e67/310340

2

- Chan KH, Peiris JSM, Lam SY, Poon LLM, Yuen KY, Seto WH. The Effects of Temperature and Relative Humidity on the Viability of the SARS Coronavirus. Advances in Virology. 2011Oct1;2011:1–7.
- First data on stability and resistance of SARS coronavirus compiled by members of WHO laboratory network [Internet]. World Health Organization. World Health Organization; 2015 [cited 2020Mar27]. Available from: https://www.who.int/csr/sars/survival_2003_05_04/en/
- Duan SM, Zhao XS, Wen RF, Huang JJ, Pi GH, Zhang SX, et al. Stability of SARS coronavirus in human specimens and environment and its sensitivity to heating and UV irradiation. Biomedical and Environmental Sciences [Internet]. 2003Sep;16:246–55. Available from: https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/14631830

3

- Casanova L, Rutala WA, Weber DJ, Sobsey MD. Survival of surrogate coronaviruses in water. Water Research. 2009;43(7):1893–8.
- Municipal Water and COVID-19 [Internet]. Centers for Disease Control and Prevention. Centers for Disease Control and Prevention;2020[cited2020Mar26]. Available from: https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/php/water.html

Courtesy DAN Europe Foundation

DAN
DIVERS ALERT NETWORK EUROPE

Translated and Japanese version by

DAN JAPAN

〒231-0005
神奈川県横浜市中区本町 4 丁目 43 番地
A-PLACE 馬車道 9 階
TEL:045-228-3066　FAX:045-228-3063

COVID-19
予防するための方法

1. ダイビングセンターへの立ち入りはダイビングのお客様のみに限らせていただきます。ご家族やご友人は、ダイビングセンターにお入りにならないでください。

2. 以下のいずれかの症状がおありになる場合は、COVID-19（コロナウイルス）感染症のおそれがありますので、ダイビングセンターの敷地内には立ち入らないでください：

✓ 熱
✓ 咳
✓ だるさや筋肉痛
✓ 息切れ
✓ 喉の痛み
✓ 肺感染症
✓ 頭痛
✓ 味がしない
✓ 下痢

3. 2週間以内に旅行した、また、COVID-19感染者あるいはその可能性がある人と接触したことがある場合には、医療機関か、かかりつけの医師に診てもらってから、ダイビングセンターにお越しください。

4. ダイビングセンター内が混み合わないようにするために、お互いに、少なくとも1mの距離を保って接触するようにしてください。

5. ダイビングセンターへの入場は、常に一定の数に人数を制限させていただくことがあります。

2020年4月30日版

DAN JAPAN　DAN EUROPE DIVERS ALERT NETWORK EUROPE

マスクのつけ方、外し方、捨て方 （添付2）

1

マスクをつける前に**アルコールベースの消毒剤か石けんと水で手を洗ってくださ**

2

鼻と口をマスクで覆い、**顔とマスクの間に隙間ができないようにします**

3

使っているときにマスクには触らないでください；触ったら、アルコールベースの消毒剤か、石けんと水で手を洗ってください

4

マスクを外すには、**後ろからとります**（マスクの前の面に触ってはいけません）
すぐに密閉容器に捨てます；
アルコールベースの消毒剤か、石けんと水で**手を洗って**ください

使い捨てグローブの使用方法（添付3）
ガイドライン

グローブをつける前に次のことを行ってください

1. 宝石類は全部外し、爪でグローブを傷つけないか確認します

2. アルコールベースの消毒剤か石けんと水で手を洗います

3. 手にあったサイズのグローブを選びます

4. 破けや汚れ、汗があれば取り替えます

安全にグローブを外す方法

1. グローブ外側の手首あたりをつまみます

2. 下に剥いて外し、グローブ内側を外にして、グローブをしている手で握ります

3. 外した手の指2本を残りのグローブ手首下に入れて、下向きに剥いて外します

4. 内側を外に返して、最初のグローブを内側に残します

5. 密閉容器にグローブを捨てます

6. アルコールベースの消毒剤か石けんと水で手を洗います

DAN JAPAN

DAN EUROPE
DIVERS ALERT NETWORK EUROPE